

法人名	独立行政法人造幣局（平成 15 年 4 月 1 日設立）＜特定＞ （理事長：西原 篤夫）
目的	貨幣の製造等を行うとともに、貨幣に対する国民の信頼を維持するために必要な情報の提供を行うこと等により、通貨制度の安定に寄与することを目的とする。またこのほか、勲章、褒章、記章及び金属工芸品の製造等並びに貴金属の品位の証明等であって、公共上の見地から必要とされるものを行うことを目的とする。
主要業務	1 貨幣の製造、販売及び铸つぶしを行うこと。2 貨幣回収準備資金に関する法律（平成 14 年法律第 42 号）第 2 条の規定により設置された貨幣回収準備資金に属する地金の保管を行うこと。3 貨幣に対する国民の信頼を維持するために必要な情報の提供を行うこと。4 勲章、褒章、賜杯、記章及び極印の製造を行うこと。5 公共上の見地から必要な金属工芸品の製造及び販売を行うこと。6 貴金属の精製及び品位の証明並びに地金及び鉱物の分析を行うこと。7 1 から 6 の業務に関し、調査、試験、研究又は開発を行うこと。8 1 から 7 に掲げる業務に附帯する業務を行うこと。
中期目標期間	5 年間
委員会名	財務省独立行政法人評価委員会（委員長：奥村 洋彦）
分科会名	造幣局分科会（分科会長：奥村 洋彦）
財務省独立行政法人評価委員会の評価基準（手法）の概要	<p>項目別評価</p> <p>「独立行政法人造幣局の事業年度評価（項目別）の評価項目及び指標」に定めた項目ごとに評価の指標に基づいて、A⁺からDの5段階評価を行う。また、実施の有無、計画の遵守・違反など2段階評価が適当な項目については「○×」により評価を行う。</p> <p>A⁺：当該事業年度の実績を踏まえると中期目標を大幅に上回ることが見込める状況である。</p> <p>A：当該事業年度の実績を踏まえると中期目標を十分に達成することが見込める状況である。</p> <p>B：当該事業年度の実績を踏まえると中期目標をおおむね達成することが見込める状況である。</p> <p>C：当該事業年度の実績を踏まえると中期目標の達成は難しいが相当程度の進展は見込める状況である。</p> <p>D：当該事業年度の実績を踏まえると中期目標の達成は困難と見込まれ業務運営の改善等が必要である。</p> <p>総合評価</p> <p>項目別評価の結果を踏まえ、法人の業務全体について、総合的な観点から、その実績を記述式により評価する。</p>

財務省独立行政法人評価委員会の17年度業務実績評価結果の概要	項目別評価																							
	<p>○ 評価結果</p> <p>1 業務運営の効率化＜平成 15 年度：A、16 年度：A、17 年度：A＞ 「組織の再編等」、「業務処理・製造工程の効率化」、「人材の有効な活用」等の5つの中項目で評価を実施</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>平成 15</th> <th>16</th> <th>17</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>評価結果（項目数）</td> <td>A⁺:1、A:3、 B:1</td> <td>A⁺:1、A:3、 B:1</td> <td>A⁺:1、 A:4</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上＜平成 15 年度：A、16 年度：A、17 年度：A＞ 「貨幣の製造等」及び「勲章等の製造等」の2つの中項目について、7つの評価項目を設定して評価を実施</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>平成 15</th> <th>16</th> <th>17</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>評価結果（項目数）</td> <td>A⁺:1、 A:5、B:1</td> <td>A⁺:1、 A:5、B:1</td> <td>A⁺:2、 A:4、C:1</td> </tr> </tbody> </table> <p>3 予算、収支計画及び資金計画＜平成 15 年度：A⁺、16 年度：A⁺、17 年度：A＞</p> <p>4 短期借入金の限度額＜平成 15～17 年度：該当なし＞</p> <p>5 重要な財産の譲渡等＜平成 15 年度：○、16 年度：該当なし、17 年度：該当なし＞</p> <p>6 剰余金の使途＜平成 15 年度：該当なし、16 年度：○、17 年度：○＞</p> <p>7 その他業務運営に関する事項 「人事に関する計画」、「施設、設備に関する計画」、「職場環境の整備に関する計画」及び「環境保全に関する計画」の4つの中項目について、それぞれ評価を実施</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>平成 15</th> <th>16</th> <th>17</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>評価結果（項目数）</td> <td>A:3、B:1</td> <td>A:4</td> <td>A:3、B:1</td> </tr> </tbody> </table>	年 度	平成 15	16	17	評価結果（項目数）	A ⁺ :1、A:3、 B:1	A ⁺ :1、A:3、 B:1	A ⁺ :1、 A:4	年 度	平成 15	16	17	評価結果（項目数）	A ⁺ :1、 A:5、B:1	A ⁺ :1、 A:5、B:1	A ⁺ :2、 A:4、C:1	年 度	平成 15	16	17	評価結果（項目数）	A:3、B:1	A:4
年 度	平成 15	16	17																					
評価結果（項目数）	A ⁺ :1、A:3、 B:1	A ⁺ :1、A:3、 B:1	A ⁺ :1、 A:4																					
年 度	平成 15	16	17																					
評価結果（項目数）	A ⁺ :1、 A:5、B:1	A ⁺ :1、 A:5、B:1	A ⁺ :2、 A:4、C:1																					
年 度	平成 15	16	17																					
評価結果（項目数）	A:3、B:1	A:4	A:3、B:1																					

財務省独立行政法人評価委員会の17年度業務実績評価結果の概要

《参考》定量的指標の実績（平成17年度）（例）

指 標	中期計画	年度計画	実績
業務改善の提案件数	中期目標期間中に1,420件以上	290件以上	441件
500円ニッケル黄銅貨幣の期間中の平均仕損率	5.2%（平成13年度実績）を下回る	—	0.6%

総合評価

○ 評価結果

年 度	平成15	平成16	平成17
評価結果	中期計画に照らして順調	中期計画に照らして順調	中期目標の達成が十分見込める状況

○ 評価の理由、特記事項等

独立行政法人化により、新たに取り入れた、①受注から販売までのプロセスを重視した事業部的組織への再編、②財務会計・管理会計などの基幹業務を統合した業務システム（Enterprise Resource Planning System）を活用した、内部管理予算制度や標準原価制度の手法、等については、定着の段階から、更に新たな改善に向けての取組みが認められる。また、ISO9001（品質マネジメントシステム）の認証を取得し維持しているところに加えて、平成17年度においては、ISO14001（環境マネジメントシステム）を全事業所において認証取得するなど環境への負荷軽減を図っていることは評価され、総括的に言って順調に業務運営がなされており、中期計画3年目にして、中期目標の達成が十分見込める状況になってきたと言える。

基幹業務の貨幣と勲章の製造面では、質・量両面にわたって信頼出来る状態が続き、この間、機械化を進める一方、技術の人的継承にも対応し得る体制を構築しつつある。PDCAサイクルが十分に機能し、業務の改善により、生産設備の故障件数や作業停止期間の大幅な短縮にみられるように、民間型の長所を取り入れた事業運営が行われており、17年度においては、新たに、予防保全充実のためのTPM活動（Total Productive Maintenance＝全員参加の生産保全）への取組

財務省独立行政法人評価委員会の17年度業務実績評価結果の概要

みが開始されるなど、予防保全体制の不断の整備が行われている。また、貨幣セット販売は引き続き好調であり、職員による業務改善活動も更に進展するなど、役職員に企業意識が浸透してきたと伺われる。

独立行政法人移行後3年目に入り、制度改革実施に伴う効果と、新しい制度の定着から、財務面においても、収入の確保、経費の節減の両面にわたって的確な経営が行われた。この結果、経常収支比率は100%以上と中期目標に掲げる目標を超え、総利益も年度計画を大きく上回るなど順調な成果を上げている。なお、経営努力によって生み出された目的積立金について、財務省令の改正により一層活用できる体制となった。今後は、ヒートアイランド対策などの環境対策にも使用予定であるが、目的積立金の使用目的に沿って、造幣局独自の施策に有効活用されていくことを期待したい。

品位証明事業については、収支面で低迷を続けており、対応策が検討されている。独自の公共的役割を果たすという観点も含めて、更なる効率化に向けての、アクションプログラムに基づく新たな工夫を検討すべきである。

今後とも、長年にわたる貨幣や勲章等の製造を通じて維持し培ってきた国民の信頼、造幣局の存在価値を更に高めるよう、前向きな取り組み、改革の継続に期待するとともに、高度な伝統的技術の継承、更なる情報公開、職員・労働組合などを含め業務にかかわる全ての人々との意見交換の一層の活発化にも配慮がなされるよう期待したい。

政策評価・独立行政法人評価委員会の意見

（個別意見なし。）

ホームページ

法 人：<http://www.mint.go.jp/>
 評価結果：<http://www.mint.go.jp/info/jitsuseki.html>